



風間 輝栄 議員

### 水原郷病院の救急体制について

**質問** 田中新市長が最優先に取り組むとする「水原郷病院の医療体制の構築」であるが、今年度から新病院建設が動き出した中で、市民の皆様が一番不安視している方が一の救急体制について伺う。  
医師の確保が難しい中で、現実  
に困難な状況にある。  
こうした状況の中で、救急告示  
病院として復活するまでの間、市

民の不安を少しでも解消する為  
に、地元医師会のご支援・ご協力  
による「休日・夜間診療体制」を  
築きたい旨の発言があり、大変期  
待しているところである。  
この現状を田中新市長はどのよう  
に捉え、どのようにして行こうと  
しているのか。市長の考え方を伺  
う。

**答弁** 平成18年に水原郷病院が救急指定告示を取り下げたことにより、市民は救急時の不安を抱え、一刻も早い救急医療の再開を願っているものと受け止めている。  
目標とする阿賀野市の医療体制の構築に向けて、精一杯取り組んでいく。

例えば、休日及び平日夜間の一次救急診療を行う場合には、医師会阿賀野支部の全面的な協力が不可欠だけでなく、バックアップ体制としての水原郷病院の役割が重要であり、また、コンビニ受診と言われるような状況に陥ること



浅間 信一 議員

### 田中市政を問う

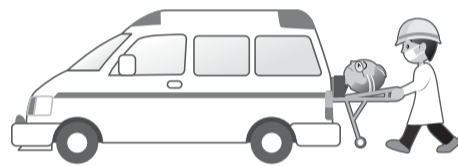
**質問** 24年3月議会において、24年度当初予算が議決されているが、田中新市長は見直しをするのか伺う。

**答弁** 平成24年度の当初予算は、議会よりご理解いただき作成された予算であることから、基本的には尊重し執行したいと考えている。  
私もこの度の市長選挙において5つの政策の柱

1. 安全・安心な暮らしの実現
2. 子ども育成支援の充実
3. 高齢者や障がい者福祉の充実
4. 地域経済の活性化
5. 生活に密着した住環境整備の促進

を掲げ、市民より信任を得たことから、約束を果たすことが私の責務であると考えている。よって、議会より議決いただいた平成24年度予算を尊重しつつも、市民との約束を果たすため財政状況を見極めながら、また、市民の目線に立ち、市民の声が活かされる市政を展開するため、平成24年度当初予算の一部を補正という形で見直しさせていただきたいと考えている。

のないよう、市民の皆様への十分な啓発活動が必要になる。  
課題は山積しているが、新病院の建設に対する考え方も含めた水原郷病院の体制強化と休日及び平日夜間の一次救急診療体制の確立ができるよう、新潟大学医学部・厚生連・地元医師会等関係機関との協議や協力依頼に努め、信頼関係を築きながら、課題の解決に向けて取り組んでいきたいと考えている。



券発行事業、「生活に密着した住環境整備の促進」として、暮らしに必要な消費パイプの新設などの予算を計上させていただいたところである。



遠藤 智子 議員

### 子どもの育成支援について

#### ①「学校司書」の配置について

**質問** 文科省は、24年度からの「第4次学校図書館図書整備5か年計画」で小・中学校への学校司書の配置に単年度150億円を地方交付税措置した。市長の政策である子ども達の視野を広げるための「本の充実」と合わせて、市内の小・中学校に学校司書の配置が必要と考えるが、現在の小・中学校の配

**置状況を伺う。**  
**答弁** 学校司書の配置割合は、小学校0%、中学校100%で、水原中学校に専属で1名、他の3中学校には1名の司書が巡回配置されている。他に臨時職員2名を中学校の図書整理業務等に配置している。  
なお小・中学校で10名が司書教諭として担当している。



**質問** 現在配置の学校司書は、国の住民に光をそそぐ交付金措置で23年24年度限りで聞く。また司書教諭は忙しく手が回らないと聞くが、25年度からの学校司書の対応に文科省の交付税措置で対応してはどうか。  
**答弁** 交付税で全額対応になれば

確実に実施するが、財政状況を見極め、25年度実施に向け検討を進めたい。

#### ②公共施設の無料化について

**質問** 子ども達の活動支援に公共施設の使用料の無料化を図りたいとのことだが、子ども達の使用にかかわる年間使用料はどの位か。  
**答弁** 23年度決算ベースでは総額400万円位となっている。

**質問** 無料化には条例改正が必要となるが、実施日はいつ頃と考えているのか。  
**答弁** 現在担当課に係例規の検討を命じている。実施時期については、25年度より実施をしたい。

6千万円を予算化している。

### 市役所の組織改革は

**質問** 市長は公約で市役所を変えたいとあるが、具体的にはどういうことか。  
**答弁** 市民のニーズに対して、素早く、的確にかつ丁寧に対応できる組織にする。そして市民中心に政策を進め、組織の再編と職員の意識改革が必要である。

平成25年度からの実施を検討しており、当面企画政策課内に「市民協働推進室」を新設する。



山崎 正春 議員

### 市政運営について

**質問** 田中新市長は今後4年間の市政運営の基本を、「対話と共感」とし、市民の目線に立ち、公正でわかりやすく、市民との協働により、質の高い市政運営を行い力強いまちづくりを進め、常に「虚心担懐」の心で、政策の柱は5本とするところがあるが、具体的にはどうするのかを伺う。

**答弁** 具体的には一つ目の「安全・安心な暮らしの実現」については、

- ①災害に強いまちづくりとして安野川、駒林川の改修を早期に完了するため、県に要望する。②学校の耐震化については、安野小学校、笹神中学校、水原中学校と実施する。③郷病院については、平成26年の新築を契機に救急車の受け入れと休日夜間の診療体制が出来るよう努力する。

二つ目の「子ども育成支援の充実」は9月より医療費助成を中学生3年生まで実施する。  
三つ目の「高齢者や障がい者福祉の充実」は10月に障がい者虐待防止センターを市役所内に設置する。  
四つ目の「地域活性化」では、プレミアム商品券発行事業補助金3千万円を6月補正計上の他、JR羽越本線開業100周年イベントを9月に予定。  
五つ目の「生活に密着した住環境の整備」は消費パイプ工事費を1億円計上し積極的に取り組んでいるほか、住宅リフォーム事業に

